

日々のあれこれ

iHola! 皆さんこんにちは。今回で8回目の寄稿になります。突然ですが、実は今回でPAISAは最終回となります。1月までの任期の予定でしたが、次の仕事の都合で10月9日に日本に帰国する運びとなりました。約3か月帰国が早まり、2年間の任期を満了できなかったことは残念ですが、ここで学んだことをこれから的人生や仕事に活かすとともに、たくさんの人との縁をこれからも大切にしていきたいと思っています。私の第一の故郷は鳥取、第二の故郷は長く生活した徳島、コロンビアは、間違いなく私の第三の故郷になりました😊



○「PAISA」って？

私の住んでいるメデジン市で使われている言葉で、「地元の人」という意味です。2年間で私も「PAISA」の仲間入りしたいという想いを込めてこのタイトルにしました。

Comuna 13 (コムナトレセ)

市内でも特に人気の観光地、コムナ13に初めて行ってきました。ここは1980年代から2000年頃にかけて、麻薬・武装組織の活動が活発だった地域ですが、行政や地域の人々の努力により、急激に治安を回復させ、今は多くのグラフィックや美しい展望が楽しめる観光地になっています。数十年前には銃撃戦が日常的だったとは思えない、陽気な雰囲気であふれています。地域の人々も観光で収入を得ています。エンターテインメントと学びの両方が得られる魅力的な場所でした。

果物いろいろ



今回は最後になるので、気になっていたけど勇気がなくて食べていなかったフルーツを食べてみました。その名も「チョンタドゥーロ」！この名前の響きだけで気になりませんか(笑)? 日本では「モモヤシの実」という名前で紹介されているそうです。フルーツには珍しく、茹でて外の皮をむいて食べます。実自体の味はうすく、塩と蜂蜜をかけて食べます。ほくほくして栗のようなカボチャのような味です。チョンタドゥーロが有名な地域では「食べれば子宝に恵まれる」と言われ、媚薬的な効果があると言い伝えられています。それについては科学的に証明はされてはいませんが、栄養豊富で元気になるフルーツです。

ヒューマン ライブラリー



9月に2回「ヒューマンライブラリー」という活動を実施しました。これは障害者や難民など、何らかの生きづらさを抱く当事者を「本」、聞き手を「本の読み手」に見立てて、小グループで対話を行うことで、社会的イメージの変化を目指す手法です。私の活動の中では、障害のある人に「本」となり自分の経験を語ってもらいました。実現にあたっては多くの人に協力してもらい、調整も大変でしたが、「本」として参加してくれた方々の言葉はとても力強く、配属先の職員にも当事者の経験を活かした支援の重要性を改めて感じてもらえる機会となったと思います。今後も、配属先でこの手法を活用していきたいとのことだったので、更なる広がり期待したいと思います。

PAISA

～コロンビア日記～

Vol.8

2026.9.23

板 華子



おわりに

これまで読んでくださり、ありがとうございました。余裕が無い時期は何か月も寄稿出来ないこともありましたが、私にとってもコロンビアでの日々を文章に残せて良い機会となりました。今はまだ目の前のことに必死で、帰国の時にどんな気持ちになるのか想像出来ていません。想像するだけで泣いてしまいそうなので想像しないようにもしています。コロンビアでの日々は、私の中の当たり前を崩し、最初は自信喪失から始まりましたが、最終的にはたくさんの挑戦を通して少しの自己肯定感と大きな向上心を残してくれました。また、先が見えない中でも、人生を1日1日楽しむことの大切さを教えてもらいました。日本に帰国してからも、多くの人にこの経験を通しての学びを伝え、自分に出来ることを一つずつやっていきたいと思っています。

Muchisimas gracias, amo Colombia!! 🇨🇴

板 華子 (いた はなこ)

JICA海外協力隊

コロンビア・メデジン市役所配属

ソーシャルワーカー・鳥取県南部町出身